

在宅保健活動論	4年・前期	1単位 15時間	教授 島田 昇
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33310944

1. 授業のねらい・概要

在宅保健活動の理念と目的，必要とされる社会的背景について理解し，在宅保健活動に関わる法制度や現状を理解することを目的とする。そこから，在宅の場における健康増進，疾病予防，QOLの向上のための援助方法，基本的な知識・技術，家族への指導方法を習得し，保健・医療・福祉の包括的ケアにおける看護職の役割について考察する。

2. 学修の到達目標

1. 在宅保健活動の目的と背景についてキーワード3語を用いて述べるができる。(D-2)
2. 介護保険と医療保険による訪問看護制度の違いについて説明ことができる (D-2)
3. 後期高齢者医療制度の対象者とサービスについて述べるができる (D-2)
4. 母子保健法における乳幼児健診について説明することができる。(D-2)
5. 障害者総合支援法の対象者とサービスについて説明することができる。(D-2)
6. 難病法における指定難病の対象者サービスについて説明することができる (D-2)
7. 医療・保健・福祉との連携についてキーワード3語を用いて述べることができる。(D-3)

3. 授業の進め方

テキストに基づいた講義中心に授業を行う。

【アクティブラーニング実施の有無】

アクティブラーニングとして，リフレクションを用いる。

【ICT活用の有無】

Google Classroomによるリフレクションの提出。

4. 授業計画（講義）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	在宅保健活動の目的と背景	講義	予習：公衆衛生看護学.jp「在宅ケアの概念」p492～498を読んでまとめる。 復習：講義内容の在宅ケアにおける看護職の役割と特性について教科書を使ってまとめておくこと。 Google Classroomによるリフレクションの提出。	島田 昇
2	在宅保健活動と保健医療福祉の社会制度	講義	予習：公衆衛生看護学.jp「在宅ケア制度とシステム」p498～506を読んでまとめる。 復習：講義内容の介護保険・医療保険による訪問看護と，健康増進法による訪問指導について教科書を使ってまとめておくこと。 Google Classroomによるリフレクションの提出。	島田
3	高齢者保健活動	講義	予習：公衆衛生看護学.jp「高齢者保	島田

			健活動」p286～309 を読んでまとめる。 復習：講義内容の介護保険制度と保健師の役割，後期高齢者医療制度について教科書を使ってまとめておくこと。 Google Classroom によるリフレクションの提出。	
4	成人保健活動	講義	予習：公衆衛生看護学.jp「成人保健活動」p260～285 を読んでまとめる。 復習：講義内容の成人期における保健活動について，セルフケア能力の向上，継続的支援について教科書を使ってまとめておくこと。 Google Classroom によるリフレクションの提出。	島田
5	母子保健活動	講義	予習：公衆衛生看護学.jp「母子保健活動」p234～259 を読んでまとめる。 復習：講義内容の産前・産後の不安，ハイリスク妊娠についての支援と，乳幼児の成長発達と保健指導について教科書を使ってまとめておくこと。 Google Classroom によるリフレクションの提出。	島田
6	障害者保健活動	講義	予習：公衆衛生看護学.jp「障害者（児）保健活動」p328～346 を読んでまとめる。 復習：講義内容の障害者総合支援法及び関連する法律について教科書を使ってまとめておくこと。 Google Classroom によるリフレクションの提出。	島田
7	難病保健活動	講義	予習：公衆衛生看護学.jp「難病保健活動」p310～327 を読んでまとめる。 復習：講義内容の患者会・家族会，難病療養支援のネットワークの活用について教科書を使ってまとめておくこと。 Google Classroom によるリフレクションの提出。	島田
8	地域包括ケアシステム・まとめ知識試験	講義	予習：公衆衛生看護学.jp「地域ケアシステム」p157～164 を読んでまとめる。 復習：講義内容の訪問看護師が担うケアマネジメントについて教科書を使ってまとめておくこと。 Google Classroom によるリフレクションの提出。	島田

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上の出席した者）100%で評価する。合格基準は60%以上とする。
合格基準に満たない（60%未満）場合は，単位認定できない。

成績評価は，「2. 学修の到達目標」に示した達成状況を，ルーブリック評価表を基に，5段階評価で採点する。尚，ルーブリック評価表に関する詳細については，第1回講義内で別途説明する。

課題レポート（グループワークのまとめ）の内容，提出期限，提出方法（場所），第1回講義内で紙面にて提示する。

定期試験の出題範囲及び出題方法等は，講義内にて口頭で説明する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：荒賀直子，後閑容子（2022） 公衆衛生看護学.jp（第5版データ更新版） インターメディアカル

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

シラバスの授業計画の範囲について最低90分以上の予習及び，授業内容について90分以上の復習を実施すること。

8. 受講上の留意事項

講義には主体的に参加すること。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，授業に関係ない言動（スマホの使用等）は慎むこと。

講義時間開始後の無断での教室の入室および退出は慎むこと。

9. 課題に対するフィードバックフィードバック方法

試験の解答は試験後に口頭にて解説する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合卒業認定不可となる。

11. 該当する本授業は，以下の実務経験を活かして実施される

行政委託機関及び，医療機関での保健師としての勤務経験を活かして，演習を行う。